

第6回 教育思想について

教員採用試験には、教育思想家とその思想家が唱えた教育思想の内容を結びつけるような問題が、よく出ます。

次の1~5の各文は、西洋教育史に関連する人物について説明したものである。これらに該当する人物を、あとのア~コの中から1つずつ選べ。

- 1 スイスの教育家。孤児教育や民衆教育に生涯を捧げた。人間性の覚醒と天賦の才能の調和的発達を教育の目的とし、近代西洋教育史に大きな足跡を残した。主な著書に『隠者の夕暮』などがある。
- 2 ドイツの哲学者・教育学者。教育の目的を倫理学、方法を心理学に求め、体系的教育学を樹立した。また、4段階教授法を提唱した。主な著書に『一般教育学』『教育学講義綱要』がある。
- 3 ドイツの教育者。子供の本質を神的なものとし、不

断の創造によってその本質が展開されると考え、子供の遊戯を重視した。そのための教具として恩物を考案した。主な著書に『人間の教育』がある。

- 4 主著書に『人間悟性論』があり、人間の精神は白紙状態であり、教育は白紙に文字を書き込むようなものという考え方を示した。
- 5 教育に関する著書『エミール』で、子供中心の教育思想を展開したので、子供の発見者とよばれている。

| | |
|----------|----------|
| ア ヘルバート | イ エレン・ケイ |
| ウ フレーベル | エ コンドルセ |
| オ ベスタロッチ | カ デューイ |
| キ ルソー | ク パーカースト |
| ケ ロック | コ コメニウス |

07 1:オ 2:ア 3:ウ 4:ケ 5:キ

それは、教育思想家とその主な内容に関して覚えていれば、出来る問題です。教員採用試験対策には思想家の名前と思想のキーワードの対応の暗記が必要ですが、それは教員採用試験前に覚えればいいことです。一番大事なことは、教育思想家やその教育思想の内容に関する理解を深めることです。

過去に教育に関して根本的で体系的な考え方（教育思想）を述べた人がいるということです。それらが現在の教育のあり方の源流になっています。現在の教育の考え方は、それらの教育思想をもとに形成されたものです。したがって、過去の教育思想を知りことは、現在の教育のあり方を考える基礎になるものです。

教育思想に関して検討する時、次のような3点が大事です。（思想一般も同じですが）

第1は、その教育思想そのものの中身です。時代を超え、誰が言ったに関わりなく、その思想の普遍的な価値や中身が問われます。

第2は、その教育思想の時代的な背景が大事です。どのような時代の中で、その教育思想が提唱されたのか。その時代の中でのその思想の意義は何かということが重要です。

たとえば、受験競争で傷つく子どもが多い時期の「ゆとり教育」の提起と、学力低下が言われる中での「ゆとり教育」では、その意味が違います。

第3は、その教育思想を提唱した思想家はどのような人なのかということです。思想はそれを提起した人の知識や価値観や人間性から出てきたものです。その思想家がどのような人なのか、どのような出身、育ち、経歴、職業、思想の持主なのかを知る必要があります。それらの理解はその人の思想への理解に結びつきます。

このように、教育思想に関しては、①教育思想自体、②教育思想の時代的背景、③思想家

の経験や人間性の 3 つを知る必要があります。

教育思想や教育思想家に関しては、主に教育哲学の分野で多くの研究があります。私は残念ながらその分野の専門家ではないので、詳しく説明することはできません。他の研究者の書いた文献を読んで理解してほしいと思います。

敬愛大学には、幸い教育思想の専門家はお二人います。おひとりは、経済学部の中山幸夫教授（副学長）、もうおひとりは国際学科の佐藤邦政准教授です。いつかお二人の授業を受講する機会があると思います（もう受講している人がいるかもしれません）。授業を履修していないくとも、教育思想に興味をもったら、是非、話を聞きに行って下さい。喜んで興味深い話をしてくれると思います（私からもその旨を伝えておきます）

今回資料とて読んでもらうのは、第 1 に、関川悦雄・北野昭男『教育思想のルーツを求めて』（啓明出版）から、「近代の教育思想」の概観と、ルソーの教育思想と、デューアイの教育思想の 3 つの文章です。

第 2 に、本学の副学長の中山幸夫教授の「教育の思想と歴史」（高野・武内編著『教育の基礎と展開』（学文社、2016、2 章）の最初の部分です。

第 3 に、脱学校論のイリッヂに関する高旗正人の解説です。

第 2 の 中山教授の論は、西洋の代表的な教育思想家 7 人に関し。的確な解説を書かれています。私なりにその要点を書き出せば、下記のようになります。

教育思想とは、教育について考えられたことを体系化したもの。それは人間観に基づかれている。西洋の人の代表的な 7 人の教育思想に関して、その思想家の生い立ちや経歴も含めて説明する（以下は、テキストよりその教育思想の 内容の核心部分のみピックアップ）

ルソー（1712～1778 年） 一人間の本性を押さえつけず、人間の本性に従った教育のあり方を説く新しい人間観（子ども観）を誕生させた。主著『エミール』では、子どもには固有の活動がある、子どもには自ら成長発達しようとする内在的な能力が備わっている、として、内なる自然に従って教育を行うべきことを説いた。

ペスタロッチ（1746～1827 年） - 貧しい民衆を救済するための拠り所を教育に求めた。『隠者の夕暮れ』が有名。

フレーベル（1782-1852） - 幼児教育の重要性に注目。幼児の遊び道具として「恩物」を考案・制作した。フレーベル幼稚園は、彼の教育思想と理論の実践の場であった。

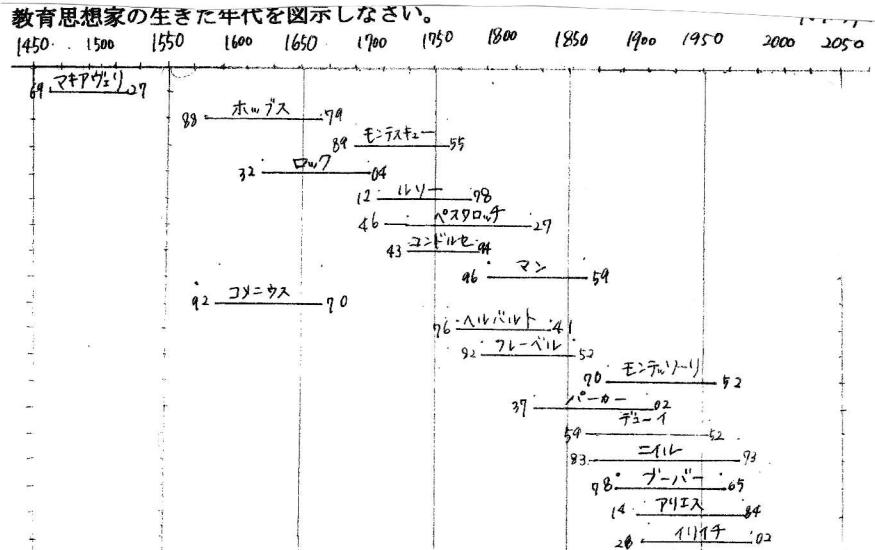
モンテッソーリ (1870~1952年) — 感覚訓練の為の教具を考察。幼児期の「敏感期」に注目。モンテッソーリ・メソッドを考案。

コメニウス (1592~1670年) — 近代公教育制度の元を作る。すべての子どもたちが貧富の別なく入学・進学できる学校体系の提案。『大教授学』が主著。

コンドルセ (1743~1794年) — フランス革命の自由、平等、博愛の精神で、公教育の政治や宗教的権力からの独立性を提起。学校分布の平等性など、近代学校制度の元を作る。

デューイ (1859~1952) — 学校は「小さな共同社会」。伝統的な一斉授業中心の学校教育を作業中心の活動的な学習の場に変える。問題解決と自己実現を目指し、成人社会における民主主義を尊重するような教育をめざす。主著『民主主義

今回の資料に出てきた教育思想家の生きた時代を図示すれば、おおよそ下記のようになります。



各教育思想家に関しては、インターネットや本で調べると、いろいろ詳しく、その思想、時代的背景、思想家の経歴などが、載っています。

今回の課題は、「誰か一人ないし二人の教育思想家を取り上げ、その教育思想の特質を説明しなさい」です。

質問への解答は、「クラスプロファイル」の「課題・提出」欄を使って、400字～1000字程度で、お送りください。(添付の場合は、字数が多くても構いません)